

News Release



本資料は、2011年2月24日に発表された2010年決算発表資料の翻訳版です。

2011年2月25日

BASF、2010年アジア太平洋地域において 過去最高の売上と利益を達成

- 売上高は44%増の125億ユーロ(約1兆4,500億円)
- EBITは倍増以上の13億ユーロ(約1,510億円)
- 2011年～2015年の設備投資額を15%増の23億ユーロへ上方修正
- 研究開発能力とテクノロジーを強化

お問い合わせ:
BASF ジャパン株式会社
水谷 あゆみ
TEL: 03-3796-4863
FAX: 03-3796-4111
ayumi.mizutani@basf.com

BASF(本社:ドイツルートヴィヒスハーフェン)はこのほど、2010 通年のアジア太平洋地域における業績を発表しました。売上高*は、前年比 44%増の125億ユーロ(2009年=87億ユーロ)、また EBIT(利息・税金控除前利益)は、13億ユーロに達しました(2009年=5億300万ユーロ)。これは BASF のアジア太平洋地域における過去最高の売上高と利益です。

すべてのビジネス・セグメントにおける増収により、BASF は、「アジア・パンフィック・ストラテジー2020」で設定した目標の達成に向け、また一歩前進しました。この成長戦略に基づき、BASF では、資本コストを上回る利益をあげながら、市場を2ポイント上回る成長率を目標に掲げ、2020年までに倍増の売上高200億ユーロを達成する計画です。

主な新規投資

BASF の取締役会メンバーでアジア太平洋地域を統括するマーティン・ブルーダーミュラーは、「市場の需要の中の著しい成長に支えられて BASF は長期戦略の実現に向け大きな一歩を踏み出しました。BASF は、アジア

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21階
TEL: 03-3796-4863
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

*顧客の所在地別の売上高

大洋州地域における強力な生産プラットフォームをベースに、市場平均を上回る成長を継続するために、同地域への投資計画を加速させていきます。既にアジア太平洋地域は世界で最も大きな化学品市場を形成しており、今後もポジティブな発展が続くと見込んでいます」と述べています。

BASF は、2011 年から 2015 年の間にアジア太平洋地域に約 23 億ユーロの投資を計画しています。これは、以前公表した 2009 年から 2013 年の投資計画比 15%増の規模になります。この計画には、現地生産拠点、研究開発能力、テクニカルセンター、カスタマー・アプリケーション・ラボ施設拡張、そしてその他施設への投資が含まれます。そして、2020 年までにアジア太平洋地域の現地生産比率を 70%にまで高めることを目標としています。

BASF では、アジア太平洋地域にある 2 つの最大化学品生産拠点の大規模な拡張を計画しています。マレーシアでは、特殊化学品を生産するために、PETRONAS と約 10 億ユーロの共同投資の可能性を検討しています。中国では、SINOPEC とともに、両社合わせて約 10 億ドルの新規投資による、南京の合弁事業での C3/C4 のバリューチェーン拡大プロジェクトを検討しています。

従業員数についても、2009 年から 2020 年までの間に 5,000 人増員する予定です。この成長をサポートするため、2010 年には、地域全体の従業員のキャリア開発の機会向上を目指し、各種イニシアチブを開始しました。2010 年末時点における、アジア太平洋地域の従業員数は約 16,000 人です。

現地のイノベーション能力を強化し、地域の主要な成長産業に対応

BASF は「ストラテジー2020」において、アジアによるアジアのためのイノベーションを駆使し、自動車、建設、包装材、ペイントおよびコーティング材、医薬品からなる地域の主要な成長産業分野で、顧客に選ばれるサプライヤーになることを目指しています。BASF は 2010 年 12 月、アジア太平洋地域初となる中国・上海のイノベーション・キャンパスを着工しました。拠点拡張の投資額は、新設のイノベーション・キャンパスと BASF グレーター・チャイ

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所：〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-4863
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

ナ本部をあわせて総額約 5,500 万ユーロに上ります。2010 年末時点で、アジア太平洋地域には 12 個所の研究開発センターが置かれており、約 500 人の従業員が働いていますが、2020 年までにはこれを 800 人にまで増員する予定です。

拠点の最適化による効率化

BASF は、2010 年、生産におけるボトルネックを解消することによる能力アップの他、原材料とエネルギーへの投入資本を削減することによって、生産能力の拡大を目指す生産拠点最適化プロジェクトの第一段階を完了しました。2010 年末には、すでに年間 9,000 万ユーロの効率化を実現しており、2012 年までには総額 1 億 5,000 万ユーロの効率化を見込んでいます。

注記： 1 ユーロ=116.24 円(2010 年の期中平均レート)で換算

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は、「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標榜する世界の化学業界のリーディングカンパニーです。製品ラインは、化学品、プラスチック製品、高機能製品、農業関連製品、ファインケミカル製品、石油・ガスと多岐にわたっています。BASFは信頼に応えるパートナー企業として、化学を通じあらゆる産業のお客様のさらなる成功を支援しています。また、高付加価値製品と高度なソリューションの提供により、気候保全やエネルギー効率の向上、栄養、交通・運搬環境の改善といった世界的な課題の解決に重要な役割を果たしています。2010年の売上は約639億ユーロで、従業員数は約 10 万 9,000 人です。BASF の詳しい情報は、www.basf.com (英語)、newsroom.basf.com (英語)、www.japan.basf.com(日本語)をご覧ください。

■日本の BASF について

BASF は日本では 1888 年に事業を開始いたしました。国内では、BASF ジャパンと 6 社の関連会社で構成されています。事業活動は、化学品、プラスチック、機能性化学品、高機能製品、農業関連製品の 5 分野です。主要生産拠点は三重県四日市市(熱可塑性ポリウレタン、ポリマーディスパージョン)と、神奈川県茅ヶ崎市(コンクリート混和材、建設化学品)と横浜市戸塚区(塗料)です。「グレーター名古屋テクニカルセンター」(三重県四日市市)内には、製紙薬品、顔料、機能性ポリマー(ディスパージョン)、エンジニアリングプラスチック、および燃料電池向けの応用研究所があり、日本とアジア市場のお客様をサポートしています。尼崎研究開発センターでは、日本のお客様へのテクニカルサービスと、さらに先端技術産業のテクノロジーリーダーに近いという地理的利点を活かし、エレクトロニクス分野に特化した研究開発を行っています。特に「ディスプレイ」、「エナジーマネージメント」、「マイクロエレクトロニクス」の分野にフォーカスし、日本発のイノベティブで、グローバルな製品の開発を目指しています。2010 年の BASF の日本での売上は 1,960 億円(16.9 億ユーロ)、従業員数は 1,700 人です。

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-4863
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>